

日本海沿岸東北自動車道

新潟・山形県境区間の早期全線開通に向けて

高速道路は、災害時の救援や復旧活動などに大きな役割を果たし、救急医療施設への搬送時間短縮など、住民の暮らしの安心や観光交流、物流など地域産業の活性化を図るうえで必要不可欠なものです。

市内を縦断する日本海沿岸東北自動車道（日治道）の新潟・山形県境区間は、ミッシングリンク（非連続性）の早期解消のため、平成25年に「朝日温海道路」として事業化されました。今年に入り、県内区間の本体工事が始まり、全線開通に向け、事業が本格化しています。

今回はこの「朝日温海道路」の整備でもたらされる効果や取り組み状況などをお知らせします。

朝日温海道路とは

日治道は、新潟県・山形県・秋田県の主要都市を結び青森県に至る延長約322キロメートル（新潟空港IC～青森IC）の自動車専用道路です。このうち新潟・山形県境の「朝日まほろばIC～あつみ温泉IC」区間（延長40・8キロメートル）が「朝日温海道路」です。

期待される効果

①車や人の移動が安全・快適に
山間部を通過する現在の国道7号は、急カーブ区間や急こう配があるため、特に運転に気を使う道路となっています。道路整備により、カーブやこう配の変化も少なく市街地への通勤や買い物など、日々の運転が快適になります。

朝日温海道路

40.8 km



▲本線着工の起工式（9月9日）



第29回 日本海沿岸東北自動車道 新潟・山形県境地区建設促進大会を開催



▲日沿道の早期開通に向け、鶴岡市の榎本市長(右)と固い握手を交わす高橋市長

8月24日(日)に市民ふれあいセンターで開催された促進大会。

この大会は、村上市長が会長、鶴岡市長が副会長を務める「日本海沿岸東北自動車道建設促進新潟・山形県境地区期成同盟会」が、毎年、鶴岡市と村上市で交互に開催しているものです。

基調講演では「交通ネットワーク形成と地域づくり」と題して、新潟大学准教授の大串葉子氏から、高速道路が果たす役割やどのように高速道路を使うのか、両市はどのような行動をとるべきかなどについてのお話を聞くことができました。

また、アイドルグループNGT48の村雲^{むらぐも}楓^{かえ}香^かさん、大滝^{おたき}友^{とも}梨^り亜^あさん、そして村上市出身の本間^{ほんま}日^ひ陽^{ひな}さんをゲストに迎え、両市長が観光や温泉、グルメについて紹介し、ゲストにどちらが良いか判定してもらう「鶴岡市VS村上市 ご当地ご自慢」も行われました。日沿道沿線出身のアイドルがゲストということもあり、会場は約800人の参加者



で大きな盛り上がりを見せました。

なお、ゲストの3人から市民の方へ、プレゼント用のサイン色紙をいただきました。申し込み方法など詳細は裏表紙をご覧ください。

② 観光活性化のチャンス到来

朝日温海道路沿線地域は、豊富な観光資源を持ちながらも交通利便性が低く、訪れにくい状況です。一方、「朝日みどりの里」や「あつみ温泉」では、日沿道の開通後に観光客が約8〜9万人増加していることから、道路整備により、観光周遊の選択肢が広がり、地域産業の活性化の機会となります。

③ 道路ネットワークの信頼性がさらに高まる

現在の国道7号は、大雨・土砂崩れや越波などの災害で通行止めとなり、物流や住民生活に深刻な影響を与えてきました。(過去10年間で30回発生)道路整備により、災害に強い安定した輸送ルートが確保でき、品物などを確実に搬送できます。

④ 新たに4千人の「安心」を確保

村上市と鶴岡市の県境には、救命救急センター(県立新発田病院・日本海総合病院)までの搬送に1時間以上かかるエリアが多く分布しています。道路整備により、新たに4千人が1時間圏域に入り、救命率の向上が期待されます。

早期全線開通のために

「日本海沿岸東北自動車道建設促進新潟・山形県境地区期成同盟会」(※1)では、毎年建設促進大会の開催や、国会議員・財務省・国土交通省などへの要望を行い、全線開通のために日々活動しています。

※1 平成元年に結成され、現在は村上市長が会長を務め、新潟県から152団体、山形県から52団体の合計204団体で構成されています。

これまでに開通した区間の沿線地域では、観光客の増加や企業の新規立地、物流の安定などの大きな効果もたらされました。

全線開通後に、経済の好循環と生産性向上をもたらすように、地域間連携をさらに進めていくなど、地域の熱意を示していく必要があります。

これからも関係機関と協力のもと、事業のスピードアップが図られるよう引き続き取り組んでいきます。

国土交通省 新潟国道事務所
朝日温海道路ホームページ

● 問い合わせ

建設課 日沿道対策室

☎ 53・2111 (内線509)

